

大学の仲間たち



サトキマダラヒカゲ

学内で見かけるチョウのうち、翅の色や模様が比較的派手なものを、これまで主に紹介してきた。今回は名前からして「日陰者」を連想するヒカゲチョウの仲間に登場願う。この仲間は日中の明るさをイメージする多くのチョウとは異なり、「ガ」のように、暗さがつきまとう。名前の由来となっているように、出没する場所が、太陽光のもとを避け、林中の陽の当たらない日影であり、翅には蛇の目模様をもつ、花蜜よりも樹液を求めることが多い。さらに幼虫が食べて育ついわゆる「食草」が、これまた地味なイメーシのあるイネ科植物であったりする。写真のチョウはカブトムシやクワガタムシ捕りの思い出のある人ならば、見覚えがあるはずである。あこがれの虫を捕りに樹液の出ている樹木を訪れたら、目的のものは見つからず、このチョウやハチばかりだったことを思い出すであろう。当然、本学でよく見かけるのは吉備塚周辺であり、五月から九月の間に年一回発生する。モンシロチョウよりもやや大きく、幼虫はササやタケを食べる。

自然環境教育センター 教授

前田喜四雄



奈良教育大学 広報
平成14年4月1日
編集 広報室
発行 奈良教育大学
<http://www.nara-edu.ac.jp>